

平成 25 年 2 月 12 日

## 専門委員会開催報告

専門委員会名	第3回「福島第一原子力発電所事故により発生する放射性廃棄物の処理・処分」特別専門委員会
開催日時	平成 25 年 1 月 17 日(木) 9:30 ~ 12:00
開催場所	公益財団法人原子力環境整備促進・資金管理センター 会議室
参加人数	委員 10 名(朽山主査、新堀幹事、池田委員、梅木委員、河西委員、桐島委員、小崎委員、佐々木委員、高橋委員、大和田委員)、他オブザーバー1 名、説明者 18 名
議 事	<p>1. 前回議事録の確認</p> <p>第 2 回特別専門委員会(平成 24 年 12 月 19 日開催)の議事録が確認された。また、前回質問事項である Cs-137 及び I-129 分布状況の推定に関する回答を行い、確認され、Cs 以外の Sr 等のその他の核種についても今後評価していくことの必要性が議論された。</p> <p>2. 福島第一原子力発電所の主な作業状況(定期報告)</p> <p>発電所内で進められている主な作業の進捗状況が説明され、主に放射性廃棄物の処理・処分に関する作業状況が確認された。また、作業にともない発生する新たな廃棄物を抑制することの重要性等が議論された。</p> <p>3. 報告書案</p> <p>報告書案の1章(背景、目的、目標等)、2章(検討の前提等)、3章(研究開発の基本的な考え方)が確認された。以下のコメントを踏まえて、修正することとした。</p> <ul style="list-style-type: none"><li>①分かりやすくかつ内容を正確に示す用語とすること。</li><li>②廃棄物の特徴を踏まえた対応の重要性をより明確に示すこと。</li><li>③安全でかつ合理的な処理・処分に向けた対応の必要性を記載すること。</li><li>④国際協力の重要性について記載すること。</li></ul> <p>また、4章(廃棄物ごとの研究開発計画)、5章(今後の課題)含め、各章ごとに委員が分担し、報告書見直し検討を行い、次回委員会で見直し案を再度議論する。</p>
備 考	

平成 25 年 1 月 23 日

## 専門委員会開催報告

専門委員会名	第 2 回「福島第一原子力発電所事故により発生する放射性廃棄物の処理・処分」特別専門委員会
開催日時	平成 24 年 12 月 19 日(水) 13:30 ~ 17:30
開催場所	公益財団法人原子力環境整備促進・資金管理センター 会議室
参加人数	委員 11 名(朽山主査、新堀幹事、出光委員、梅木委員、河西委員、桐島委員、小崎委員、佐々木委員、佐藤委員、高橋委員、大和田委員)、他オブザーバー 1 名、説明者 23 名
議 事	<p>1. 前回議事録の確認</p> <p>第 1 回特別専門委員会(平成 24 年 12 月 4 日開催)の議事録が確認された。また、前回質問事項である安全評価感度解析およびインベントリ評価に関する回答を行い、確認された。</p> <p>2. 課題の抽出事例(デブリ、解体廃棄物)</p> <p>デブリに関する既存の知見および推定について説明され、およびデブリ、解体廃棄物の保管、処理、処分に関する技術課題の抽出事例について説明された。事故進展を踏まえたデブリの性状推定の必要性、および合理的な処分概念の検討のために必要な情報を得ることの重要性等に関する議論が行われた。また、廃棄物性状を踏まえた除染や再利用等の検討の必要性が議論された。</p> <p>3. 技術開発計画検討の全体フロー</p> <p>各ホールドポイントでの進展状況の推定および開発計画検討の全体フロー案を説明された。各段階での廃棄物の分析レベル、設備等に関する議論が行われた。また、全体像を把握し、いつまでに何をやるべきかの検討の必要性が議論された。</p> <p>4. 報告書の骨子</p> <p>報告書骨子案について説明された。報告書の構成、ホールドポイントに向けた開発戦略、廃棄物性状把握と処分概念検討を並行して進めることの重要性等が議論された。</p> <p>5. 英国における廃棄物戦略と貯蔵／処分方法</p> <p>英国における廃棄物処理処分に関する調査結果について説明された。地元住民等関係者の理解を得つつ処理処分を進めることの重要性について議論された。</p>
備 考	

## 専門委員会開催報告

専門委員会名	第 1 回「福島第一原子力発電所事故により発生する放射性廃棄物の処理・処分」特別専門委員会
開催日時	平成 24 年 12 月 4 日(火) 13:30 ~ 18:00
開催場所	公益財団法人原子力環境整備促進・資金管理センター 会議室
参加人数	委員 11 名(朽山主査、新堀幹事、池田委員、梅木委員、河西委員、桐島委員、小崎委員、佐々木委員、佐藤委員、高橋委員、大和田委員)、他オブザーバー 1 名、説明者 19 名
議 事	<p>1. これまでの準備内容の確認 本特別専門委員会の設立の経緯、準備内容が確認された。</p> <p>2. 福島第一原子力発電所の主な作業状況(定期報告) 発電所内で進められている主な作業の進捗状況が説明され、全体概要が確認された。また、今後進められる除染技術等の適用にあたっては、これまでの実績を参考にすることの重要性等が議論された。</p> <p>3. ガレキ・伐採木の保管管理状況 ガレキ、伐採木の保管管理状況が説明された。保管方法の妥当性、安定性、安全性等に関する議論が行われた。</p> <p>4. 課題の抽出事例(ガレキ、伐採木、汚染土壌) ガレキ、伐採木、汚染土壌の保管、処理、処分における技術課題の抽出事例について説明された。さまざまな制約条件を踏まえ、合理的な保管、処理、処分方法を検討する必要性が議論された。</p> <p>5. インベントリ設定に関する課題の整理 廃棄物の放射能インベントリ評価における課題について説明された。インベントリ評価の精度を上げるための汚染物の分析方法、評価方法等について議論された。</p> <p>6. 安全評価感度解析事例 安全評価感度解析事例および安全評価に与える影響要素と課題について説明された。安全評価に影響する要素、精度向上の方策案について議論された。</p> <p>7. 学会事故調との関係の整理について 本特別専門委員会と東京電力福島第一原子力発電所事故に関する調査委員会(バックエンド関連)との関係について説明され、確認された。</p>
備 考	<p>第 1 回特別専門委員会の開催前に、本委員会を有効かつ効率的に進めるため、以下の準備会を実施した。</p> <p><u>第 1 回準備会</u>: 10/15、10/19 に福島第一原子力発電所の視察を実施</p> <p><u>第 2 回準備会</u>: 11/7 に開催。主な議題は、①本委員会の設立趣旨、検討の進め方、②発電所内の主な作業業況、③処理・処分に関する研究開発の状況。</p> <p><u>第 3 回準備会</u>: 11/20 に開催。主な議題は、①水処理施設・水処理施設二次廃棄物の概要、②水処理二次廃棄物の処理・処分に関する課題。</p>